
宵闇の滞在者

鈴村弥生

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宵闇の滞在者

【Nコード】

N0831P

【作者名】

鈴村弥生

【あらすじ】

黄昏時の訪問者の続編

インタビュー形式で少しずつ。

トワイライトプリンスをプレイした人にしか解らない仕様になっております。

気にしない方はどうぞ。

題名にあわせて、レイアウト変更しました。

其の一 とある少女の証言 (前書き)

最初はこの子。オリキャラです。

其の一 とある少女の証言

ツンデレだ。

これは絶対ツンデレだ。

だってさ。

ツンツンしている人と、デレデレした人が一緒に居るから、ツンデレって言うんだよって、シャッド先生と一緒に来た、ハンナお姉ちゃんが言ってるもん。

だよな？ お姉ちゃん。

ほら、そうだって。

リンクおじちゃんが息子だっていうお兄ちゃんに、ニコニコ話しかけてるのに、お兄ちゃんはボソボソって答えたり、そっぽ向いたりしてるんだよ。

あれがツンデレなんだって。

へっ

リンクおじちゃんがツンデレってさあ、驚いたよ。

明日、ロンとサンタとボビーに教えなきゃ。ツンデレのこととか、おじちゃんのこととかもね。

あ、デザートがかぼちゃプリンだ♪

其の一 とある少女の証言（後書き）

誰と誰のお子様か判るかな？因みに弟も居ます。黄昏時の冒頭にチヨ口つと出てます

其の二 とある主婦の証言（前書き）

次はこの方。オフィシャルキャラですね

其の二 とある主婦の証言

本当に、驚きました。

お舅^{とう}さんが突然、リンクさんとその息子さんと云う方を連れて帰って来られて、しかも二人とも濡れ鼠の上に、リンクさんは服もボロボロだったんです。

神殿から帰られたらしいから、当たり前ですよね。

私とお姑^{かあ}さんで お風呂の用意をしたり、洗濯したり。もう大騒ぎでしたよ。

でも、良かった。

だって、あんなに嬉しそうなリンクさんの笑顔が見れたんですから。

それにしても、息子さん。リンクさんにそっくりです。

確か、十六だと聞きました。私が、初めてリンクさんにお会いした時の、リンクさんのお歳と同じです。

まるで時間がさかのぼった様ですね。あの頃私は、父と二人でカリコ村に住んでいました。

主人達がブルブリンに浚われてきたのを、父が保護して、その彼らを探して、リンクさんがやって来た。それからずっと、懇意にさせていたいたんです。

主人との縁談も、リンクさんが取り持って下さったようなものです。

だから、大恩のあるリンクさんが、いつまでも一人で寂しそうなのが気の毒で。目だってあんな事になってしまわれたし……

でも、本当によかった。

あんな立派な息子さんが、会いに来られて。

リンクさんも嬉しそうで。

あ、すみません。主人が呼んでいますから、これで失礼しますね。

其の二 とある主婦の証言（後書き）

大人になっても丁寧です。眉毛も太いのでしょうか？

其の三 とある幼馴染の証言（前書き）

こちらもおフィシャルキャラ。判りきってますね

其三　とある幼馴染の証言

まったくもう……リンクもうちの人もなんで土壇場になってから教えるのかしら。

男ってそういうところがいい加減で困るわ。

予定より一日早く帰ってきたのはえらいと思うわよ。

いつつもぎりぎりまで『この壁画を』とか『この文様を』とか言っ
て遅くなること知ってるんだから。潔く約束守って、早めに帰
ってきてくれたのは嬉しいんだけど。

のほほんつと顔出して『リンクの息子さんが来てるみたいだよ』
なんていきなり言うから、私もお父さんもびっくりしちゃって、お
父さんなんか腰抜かして椅子から転げ落ちちゃったのよ。

その後はもう、大騒ぎだったのよ。

お父さんはそのまま持病の腰痛が出て、動けなくなっちゃうし。
若いころゴロン達と無茶してたから、とうとう痛めちゃってるのよ、
腰。お母さんが生前言っていた通りになったわ。

それで、何とか寝かせてあわてて家に帰れば、ちょうど戻ってき
たリンクやモイおじさんと出くわして、お父さんと同じ名前ってい
う息子さん紹介されたの。

二人ともずぶ濡れだったけど、それはウーリおばさんが何とかし
てくれるって、おじさんが請合うから任せる事にしたの。

それで、とにかく家に戻って、お昼に作っていたかぼちゃプリン
を抱えて、モイおじさんの家に走ったのよ。娘とうちの人連れて。
せっかくリンクの息子が会いに来たっていうのに、この私がかぼ
ちゃプリンしか持って来れないなんて。

一生の不覚だと思うわ。

だってね、リンクの子供って事は、私の甥も同然でしょう？

私とリンクは姉弟みたいに育ったんだもの。

あの子には伯母も同然。

その伯母さんが、初めて会うときにかぼちゃプリンくらいしか持って来ないなんて、なあんだ。って思われたら嫌でしょう？

ああもう、せめてもう少し早く知っていたら、それとお父さんが腰を抜かさなかったら、もう少しまともなものが持ってきて来れたのに、でも、しょうがないわね。

プリンを作っていただけでも、精霊様のご加護かしら。

あの子の口に合えばいいけど。私の育てたかぼちゃのプリンだから、美味しいとは思うのよ。

そういえば、あの子。

リンクって呼ばれるよりダークって呼んで欲しい、とか言ってたわね。やっぱりあの年頃だと、お父さんと同じ名前って照れるのかしら。

ほんとにそっくり。十六歳のリンクをもう一度持ってきたみたいに。

性格と色が違うけど、それにいかにも田舎くさかったリンクとはちょっと違って、都会的っていうのかな、洗練された感じするけど。お母さんの身分が高いつて話だから、それも当然かしらね。

それにしては口が悪いけどねえ。

ふふふ。

一時期噂してたのよ。リンクが懸想しているのは、ゼルダ姫じゃないか？ って。

それで、姫様が結婚してしまったから、リンクは完全に失恋したんじゃないかな？ って。

違うって、本人は言ってたけど、ほんとに違ってたのね。

影の国のお姫様ねえ……カカリコ村で実はリンクと一緒に私と会ってた、なんて聞いてても、見えてないし話してないから、判んないのよ。

それにダークの顔がリンクにそっくりすぎて、お母さんの顔の想像ができないのよね。

気になるなあ。

ん？ ハンナ。ツンデレって何言ってるのよ。

ダークとリンクがツンデレ？ あのね、誰に聞いたの？ そんな言葉。

お父さん？

アナタ。ハンナに何教えてるの？ ほんとにもう、すぐ甘やかすんだから。だいいち意味違うし。

あ、すみません。ちょっとうちの人と話があるので、これで。それじゃ。

アナタ。今日こそ言わせてもらいますけどね……

其の三 とある幼馴染の証言（後書き）

相変わらずです。

其の四 とある亭主の証言（前書き）

カボチャを投げつけたくなる人です

其の四 とある亭主の証言

え……それ、持つて行くのかい？

その……いや……蜂の仔とか、蜂蜜とか……山羊の乳でもいいかな
……なんて、思うんだけど。

やっぱり、だめ？

いや、お前がそれがいって言うんなら、まあ、あたしは別に、
文句は無いよ。

うん。

え？ はじめに嫌な顔した理由？

いえ……あの……な……なんでもないんだよ……

え？

言え？

夫婦で隠し事するのかいつて……お前。

そんな怖い顔しなくたって……言つよ。言つからさ。

いや、あのさ。

そのかぼちゃは、あんまり形がよくできたから、今度ベスが戻つてきた時に、見せてから炊いてやろうかって、お前とも話していたからさ。

え？ ベスがいつ帰るって？

そりゃ、何時とは手紙に書いてなかったけど、もうそろそろお腹も目立つし、旦那が村まで連れて帰ってくれるって、書いてあったじゃないか。

だから、そんなに先の話じゃないと思うし。

え？ そんなの待っていたら、かぼちゃが腐る？

かぼちゃは、そんなにすぐには腐らないだろう？ 一冬保ったんだし。

まあ……これから暖かいからねえ……うん。

かぼちゃの新しいのもすぐできるよねえ。

まあ、リンクに息子が尋ねて来たなんて、そりゃ、こんな事滅多にあるわけじゃないし。

お前の言うとおりだよ。

うん。さっきイリアちゃんも、シャッド先生とハンナちゃん連れて走って行っだし、うちが遅れるわけに行かないってのも、判るけどさ。

そんなに……慌てなくっても。

いやいやいやいや！

無関心だなんて、そんな訳無いじゃないか。

そりゃ、リンクの小さい頃から知ってるし、あの騒動の時に、リンクがベスを助けてくれたからこそ、初孫も授かったんだし。

……感謝……してるよ？ うん。

でもね。もう夜だし、大勢で押しかけても、モイの家の迷惑じゃないかなって……

え？ じゃあ留守番している？

まさか、こんな夜になって、お前を一人で歩かせられないだろう？

夜道は……怖いから……ね？

え？ 怖くない？ すぐそこだ？

そりゃ、そうだけど。

荷物も重いし。

うん、行くよ。行きますよ。

じゃ、かぼちゃ持ったよ。

はい、行こう行こう……

其の四 とある亭主の証言（後書き）

立ち泳ぎはなかなかでした

其の五 とある女房の証言（前書き）

声でかいんです

其の五 とある女房の証言

ちよつと父ちゃん、行くの？ 行かないの？ どっちなのさ。

あら、ごめんなさいよ。

いやさ、今モイんとここにリンクが来てるのさ。

まあ、リンクだけなら珍しくも何ともないんだけどさ。びっくりしちまったのは、リンクの息子が一緒だっていうじゃないか。

情報早い？

あつははは。

そりや、川向こうでセーラ家が騒いでるからさ。声でかいんだよセーラは。

ま。あそこん家の旦那がやりこめられてるだけだけどねえ。いつもの様に。

それでさ。向こうん家も行くらしいし、家も顔出ししといった方がよかないかってさ、今父ちゃんに話してたんだよ。

え？ 父ちゃん、何だつて？

タロなら一旦戻るってさ。すぐ、リタ達連れてくるって言つてたよ！

あ、ごめんよ。あの人ったら、無関心な顔して、ほんとにものすごい気になってるのさ。なんてったって、リンクのちっちゃい頃から知ってるし、親を早くに亡くしたあの子の、村中が親代わりみたいなもんだからね。

リンクによく似てるって言うから、どれだけ男前なのかも、気になるじゃないか。

それで、タロつてのは上の息子なんだけどね。弟のマロもだけど、リンクに弟みたいに可愛がってもらってたからねえ。居ても立ってもいられないみたいでさ、さっきまで家で父ちゃんと作業してたんだけど、一度家に戻って、みんな連れてくるって帰ったのさ。

嫁さんはリタつてんだけど、なかなかいい子なんだよ。もともと

はマロの店で働いていた子でね。しつかり者で働き者さ。あたしのことお義母さんなんて立ててくれてねえ、ほんと可愛いんだよ。

孫は双子でね。ロンとサンタって男の子なんだけど、これがまたタロとマロの子供の頃とそっくりで。可愛いのさ。

あたしや幸せだよ。

マロもねえ、今は力カリコ村に住んでるんだけどさ。

ゴロン族と組んで、都どころかハイラルの外にまで店を出すほど、手広く商売しててさ、自慢の息子だよ。

もちろんタロだって自慢だよ。親孝行だからねえ。

ちつこい頃は剣士になるんだ、とか鼻息も荒くって少しの間都で近衛兵にもなったんだよ。でも、リタと結婚して、父ちゃんの跡を継ぐって言って帰ってきてくれたのさ。

いまじゃ立派な職人だよ。

父ちゃんもまだまだ負けるか、なんていきがってて、二人とも今はいい仕事仲間だよ。

これで、後はマロが早く身を固めてくれたら、なぐんにも心配なくなるんだけどねえ……

おや？ タロ達が来たみたいだ。

それじゃ、これでごめんよ。父ちゃんともちゃんと話さないといけないしさ。

父ちゃん。父ちゃん。タロ達が来たよ。

え？ 今誰と話してた？ そりゃあんた……あれ？ 誰だろう……

……？

其の五 とある女房の証言（後書き）

ちなみにわんこも元気です

其の六 とある同僚の証言（前書き）

トアル村、村民数の少なさを捏造 W W

其の六 とある同僚の証言

リンクはすごいよ。

一緒に牧場で働きだして、もう何年になったかなあ……
かれこれ二十以上年かなあ？

牧童の見習いで村長に連れて来られた時、リンクはほんの十二・三くらいだったよ。

ありやあ村が一気に寂しくなった頃だ。

前の年に流行り病があつて、何人も死んじまつてなあ……リンクの二親や俺の親父。ジャガーふたおやんとこの婆さんもぼっくり逝っちまつて。

家ごと燃やさなくちゃならないような、一家全部駄目だったところもあつてな。村の人数も半分になつちまつて、みんな、なにしていのか解んなくなつてたんだよ。

俺もなあ、親父の他に身内も無かつたから、山羊追いにも身が入らないわ、牧童仲間は居なくなるわで、今でもあの時何をしていたのか、よく覚えてないんだけどな。

村長が連れてきた、青い目に強い光を浮かべた子供は、忘れられないよ。

そりゃ、初めて会つたわけじゃないよ。

リンクの親父さんに俺は仕事教えられたんだし、リンクのお袋さんはそりゃ綺麗な人でさ。弁当届けに来るお袋さんに、リンクも時々くつついてやって来てたつけ。

村長んとこのイリア嬢ちゃんと、泥んこになって山羊や子馬と走つてたりもしてたな。

でも、俺の前に立って『よろしくおねがいします』って頭下げた子供は、俺の知つてた坊主とは違つてた。

何かを決めた、男の目をしてた。

実際、飼葉の刈り込みや、厩舎の掃除や、ちっちゃい体で飼葉の

鍬を振り回してるのか振り回されてるのか判んない様な有様だったけど、俺の教える事にがんばって着いてきたよ。

子馬のエポナは、リンクがいつとも一緒に居るから嬉しかったみたいだけだな。

牧童になったのは、親父さんの跡を継ぎたいって思ったのと、あの家から出たくなかったからだ、と言ってた。

二親が死んで、残された子供は一人で生きていかなくちやならない。

自分は一人で生きれるって証明したかったらしいよ。

三年も経ったら、俺より山羊の扱い上手くなっちまってさ。敵わないって思ったよ。

年もそんなに離れてなかったし、よく話した。

どんな話かって？

そりゃ男同士の話だから、あけすけなの多いよ。

あはは。

イリア嬢ちゃんはよく、リンクとついでに俺の昼飯を差し入れてくれてたな。

あの頃が、一番穏やかで、リンクが幸せだったって思うよ。

俺はてつきり、リンクはあのままイリアと結婚して、村長になるんだって信じてた。

でもどうだい。

いきなり魔物がやって来て、イリアや子供たちを浚って、リンクは助けるために追いかけてって、なんかばたばたしているうちに、子供たちは戻っても、リンクはめったに村に戻らなくなった。

都でゼルダ姫の信任の厚い騎士になっちまったんだそうだ。

でも、イリアが待っていれば戻ってくるって思っていたけど、遺跡調査とかでやって来た学者先生と結婚しちまうしなあ……

いや、シャッド先生はいい人だよ。家の坊主に字も教えてくれるし。

ただ、あの頃は、納得いかないって思ったもんなんだ。

でも、リンクは目の事もあつて戻ってきたし。

あの時攫われた子供たちもそれぞれ所帯を持って、村もにぎやかになってきたしさ。

時間つていうのは、何でも解決してくれるもんだな。

リンクの目？

さあ……病気なのか怪我なのか、リンクにも解らないらしいんだ。四年位前からだんだん霞みだして、二年前からぼんやりと光と影が見える程度になつたらしい。

がのんなんとかの呪いかも。とか言つてたかな？

何の事かわからないけど、薬も何も効かなかったらしいよ。

でも、目の代わりだつてエポナに乗つて山羊を追うのは、昔のま
んまでさ、ほんと、見えないなんて信じられないくらいさ。

ほんと、すごいよ。

でも……なんであんたそんなこと聞きたがるんだ？

俺、仕事も終わったし。そろそろ家に帰つて飯食いたいんだよ。

嫁さんと子供も待つてるし。

え？ リンクのところに息子？！

え？ え？ まさか、話に聞いたミドナとかやつて来たつて？

リンクから色々そのあたりは聞いてたけど。いや、ほんとに居たのか？

こうしちゃ居られないよ。

ごめん、急ぐからこれで。

うわぐたいへんだあゝ

其の六 とある同僚の証言（後書き）

だいたい、6軒でリンクン家抜かして5家族じゃ少な過ぎるでしょ？

其の七 ある為政見習いの証言（前書き）

トアル村は後にして

其の七 ある為政見習いの証言

トアルかぼちゃのドリア。トアルかぼちゃとトアルチーズのグラタン。トアルかぼちゃのキッシュ。スタッドトアルパンピング。トアルかぼちゃとアンチョビのオイルソテー。トアルかぼちゃブレット。トアルかぼちゃのラタトゥユ。トアルかぼちゃのポタージュ……
母上。何でもかと言わんばかりにトアルかぼちゃなのか？

ほら、お客人も困惑されています。

私も、当分かぼちゃは見たく無いと思います。

勿論、母上のかぼちゃ好きはよく知っておりますが。それでもここまで並べるのは、何か意図がありなのですか？

お有りなんでしょうね……

何より、ずいぶん楽しそうな様子から、察せます。

父上は……やはり苦笑されるだけなのですね。

母上の最大の理解者である父上ですから、このかぼちゃ攻撃の真意もご存知なのでしょう。

しかし、敢えて言わせて頂きたい。

父上は母上に甘すぎます！

はい、確かにこの国の長は女王である母上です。が、父上は大公であり宰相ではないですか。

王の独断と暴走を諫め、正道を過たず進めるように補佐する事が、父上のお役目ではないのでしょうか？

しかるに、ハイラル始まって以来とも云える、大切な客人をお迎えしたこの宴に並べられる料理が、かぼちゃばかりとは。

ハイラルの主力生産物がかぼちゃだと思わせたい、とお考えなのでしょうか。

私には理解しかねます。

客人。

貴方はあの影の国からの御一行のお一人なのですか？

はい。確かに、我々と祖を同じくする民が異世界に封ぜられている。という話は、幼少の頃より母に教えられてまいりましたから、先方から道を開きたい旨の知らせを受けた時、あまり驚かずに済みました。

しかも影の国の女王陛下と母上とは、十六年前に交流が有ったとか。

ゲルドの処刑場で、ポータルなる入り口が開かれて、神秘的な一族の方々が現れた時。

彼の国の女王陛下と母上は、名を呼び合うほど親しげで打ち解けておいででした。

しかもどちらも美しく。母上が日中の天道の如き強い光をお持ちなのに対して、ミドナ陛下は黄昏の黄金の如き、妖しく艶やかな光を放つ方だと思いました。

本当にお美しい……おほん。

とにもかくにも、これで新たな交流が始まり、隔てられていた二つの国が、手を携えて共に未来を目指していける。素晴らしい事だと思います。

私も次代を担う王子として、この歴史的な邂逅に立ち会えた事を誇りに思います。

それにしても、ミドナ陛下と共に来られた、影の国の王子殿はどこらに行かれたのか……

訪問の歓迎式典の折、いつの間にか姿を隠してしまわれ、いまだにお戻りではありません。

ゼルダ姉上が言葉を交わしておられたご様子でしたが、私は何も聞いていませんから、どうなっているのか。

こんな時に自分勝手に行動するなど、あちらの世継ぎともあろう方が、ずいぶん勝手かと思っています。

え？ リンク？

リンクはよく知っています。母上の第一の騎士として名高い者で

す。

ただ旅が多く、あまり出仕はしていませんでしたが、実は私の剣の師匠でもあるのです。

二年程前に目を患い、官位を辞して、国に戻ったと聞きます。また会いたいとは思っていますが、彼がどうしたのでしょうか？

なんでもない？

そうですか。

それにしてもお客人。

貴方は本当に奇妙な衣装を着ておられますね。

ミミズク……いや、梟でしょうか？

おや？

お客人、どちらへ？

もし、もし？

其の七 ある為政見習いの証言（後書き）

国交回復は順調のようです

其の八 ある女将の証言（前書き）

肝っ玉母さんwwwいい女ですww

其の八 ある女將の証言

リンクだつて？

ずいぶん懐かしい名前だねえ。

ああ、二年前なら常連だったよ。城下に居る時なら、だけどさ。勿論、好い男さ。

腕は立つし氣つ風はいいし、顔も良い。稼ぎも金離れもいいときた。

あたしがあと二十も若かったら、放つとかないんだけどねえ。ハイルルでのお袋さんなんていわれちゃったら、手が出せないじゃないか。

そりゃあしつかり世話焼いたよ。おつ母さん代わりにさ。ウチに下宿もさしてたんだよ。

もつとも、滅多に城下に居なかったけどね。

探し物してる、とか聞いたけど、見つからなかったみたいだよ。

え？

ハイルルの騎士様が、こんな場末の酒場に下宿なんておかしいかい？

これでもあたしや、街の顔役なのさ、何処にでも顔が利くんだよ。

……なぐんてね。

リンクが初めて城下に来たときに、ちよいと関わりが出来て、そのよしみさ。

あの、いかにも田舎から出てきました、って感じの坊やが、店の戸口をくぐったのは。

ハイルルが、なんか変になつちまつてた頃だったよ。

ちようどね、ウチに転がり込んでた女の子がいて。あたしが面倒みてただけど。

可哀想に、ブルプリンに村から攫われて来たんだそうさ。

イリアっていう、氣立ての良い娘なんだけどね。ウチに来た時は、

自分の名前さえ忘れちゃってる有り様だったよ。

その子を探しに来たのがリンクだったって訳さ。

イリアも運の強い子だよ。

ほら、あんたも知ってるだろ？ ブルブリンが娘を攫って何をするの。

あいつら雄しか居ないからねえ……でも、あの娘はインバルとか云う人に助けられて、逃がされたんだって。全部思い出してから教えてくれたよ。

ほんと、無事で良かった。

今じゃ学者の奥様さ。

ま。この店に居た時に相手の男と知り合ったから、あたしが仲人みたいなもんなのよ。

まあ……それもちょっと不思議なんだけどね。

だって、イリアとこの店で再会した時のリンクの様子とかだと、絶対できてる。って思ったんだけどねえ。

どうもほんとに、身内っていうか兄妹みたいな感じだったらしくて、お互いが大事だけど、恋とかじゃないってもんだったらしいのさ。

見抜けないなんて、あたしもまだまだだね。

娘のハンナちゃんは、そろそろ十くらいかねえ……お腹にもう一人いるらしいけどさ。

手紙に書いてあったよ。

亭主のシャッドって学者は、実はあたしが父親の代から知ってる男でね。

ハイラルの遙か昔に栄えたっていう、天空人の伝説を研究していたんだよ。

あたしには夢物語にしか思えなかったけどさ。

なんとまあ、その天空人の住む、空の彼方の都市ってのを見つけてきたのも、リンクなのよ。

何時の間にかハイラル湖の畔にでっかい大砲据え付けて、それで

どーんと飛んでいくと在るんだってさ。

シャッドは一度、嬉しそうに飛んでったけど。帰りの着水で足を折っちまってからは、資料をリンクに取って来て貰って、自分は地面で待つ事にしたみたいだよ。

あたしや懸命な判断だと思うよ。もやしとまでは言わないけど、あんまり荒事に向いてない学者さんだからね。

今はリンクと一緒に、フィローネ地方の森の奥にある神殿つてのを調査し続けているらしいよ。

リンクは二年前に村に帰って、また牧童しながらシャッドの探検の手伝いをしてるらしいよ。

見えないのに見えてるみたいだって、シャッドの手紙に書いてあった。

なんでも、センスとかいうのが鋭くなってるらしい。なんてリンクが言ってるんだってさ。何の事かねえ。

あたしが知ってるリンクの話つてのは、こんな感じかねえ。

お客さん。何が知りたいんだい？

え？ リンクの息子が村に行ってる？

ふうん。

お城の晩餐会抜け出したのか……

いや、こっちの話。

良かったじゃないか。探し物がやって来てさ。

え？ ゲルド？

肌の色を見りゃ判るだろ？

確かに、あたしの遠いご先祖には、ゲルド族が居るらしいよ。

だからなんなんだい？

……どうやら、知らなくていい事知ってるみたいだねえ……

あ、ちよいとお待ちよ！

ちよいと！

其の八 ある女将の証言（後書き）

なんか後ろいっぱい持ってそうですね

其の九 ある釣り堀主の証言（前書き）

もしかしたら、一度も立ち寄らなかった人もいらっしゃるかも
あなのんびりした場所には癒されました。

其の九 ある釣り堀主の証言

リンク？

ああ、あの兄ちゃんかいな。

知つとるか？ て、なあお客さん。当たり前やんかあ。

あないな釣り好き、そうそう居らんで。

うつとこに来たら、必ず丸一日舟から降りて来いひんねんで。おまけに、どんなしつよばい魚が釣れても、嬉しそうな顔しはつてなあ。

ほんまに釣りが好つきやゝって、全身で叫んでるみたいな人やで。ほいで、なんやの？

あの兄ちゃんなら、二年くらいかな？ 来てへんで。

なんや、目え悪なつてしもてんでな。まともに歩けるうちに故郷くに帰るて言わはつて。釣り納めやゝちゅうて、三日三晩舟の上で粘つてからに。とうとうハイラルドジョウの最高記録更新しはつてん。ほら、そこに絵あるやろ？

ええ顔したはる。

ほんで、その水槽の底にどべゝつてのさばつとるのが、そんな時の魚やねん。

でつかいやろ？

ウチもこんなでかいのんが、釣堀んなかに居ったなんて、思つてへんかつたわ。

さすがに、まだ破られてへんで、あの記録。

今はなにしてるか？

知るかいな、って普通なら言っんやけど。お客さんになら、いけずせんと教えたるか？

って言つても、ウチも人伝やから詳しくはないんやけど。

弟がフィローネ地方で店やってるねん。そこでちよくちよくカンテラ油買つて行くんやて。

目え見えてへんのになんでカンテラ要るんか、ウチも不思議やつてんけど、一緒にいてはる学者さんが使っらしいわ。

あの兄ちゃんは腕立つらしいからなあ。見えてへんでもめっちゃ強いって、弟から聞いてるんよ。

学者さんがフィローネの森んなかで、魔物に襲われんように、護ったはるねんて。

住んでるのトアルっちゅう、南の端っこの村らしいで。

んゝ後はよう知らんわ。

それにしてもお客さん。なんでそんな事聞きたいのん？
え？

あの兄ちゃんどこに息子が来た？

てんごちゃうん？ ほんま？

ほうかあゝ一人暮らしやて聞いててんけど、家族が出来たんかあ。
なんや、ええ知らせやんか。

おおきに。

ほっとしたわ。

え？ もう帰る？

冷やかして悪い、なんて言わんでええよ。
ほなな。今度来た時は、釣りしてつてや。

其の九 ある釣り堀主の証言（後書き）

船の上で昼寝などいかが？

其の十 ある王の証言（前書き）

当時はお子様でした。

其の十 ある王の証言

お客人。ゾーラの里によくいらした。

私はこのゾーラを統べる王。

ここはハイラルとは違いさしたるものは無いが、美しい景観と豊かな水は民の自慢。

ゆっくり休んでいかれると良いだろう。

ん？ 何かな？

リンク……か。

懐かしい名を聞いた。

彼は私には……いや、このゾーラの恩人だ。

かの僭王ザントが現れた折、里が氷で閉ざされ。民もすべて氷漬けにされた上、わが母ルテラは処刑……私も里から遠く離れ、生死の境に居た。

長き歴史を持つゾーラの里も、終焉を迎えかけた火急存亡の折。彼は鮮やかにこの地に現れ民を救ってくれた……そして私の事も。もつとも、その時の彼の姿を見た者は一人もいないのだ。

民の話では、凍った里にいきなり灼熱の大岩が投下され、氷が一気に溶かされたらしい。

では、なぜ判るか？

ゾーラは鼻が利くのだ。

そして、気配を感じる力がある。

水が戻った時から、頻繁に姿を見せるようになった獣が、彼の気配と臭いをさせていた。そう、当時を知る民が言っていた。

私も実は、その獣には何度か遭遇したことは有るのだ。

とても穏やかで、人を恐れず、静かで深い瞳で見つめてきた。

その佇まいはまさに、リンクその人と同じであった。

声をかけた事は無いがその獣は、父の墓所にて己の不甲斐なさや、

これから成さねばならぬ事への不安に頂垂れる私を氣遣うように、何度か傍まで寄って来ていた。

私は、そんな獣の姿を見たり、リンクと話したり。そして微力ながら手助けができて、王となる決心が着いたのだ。

すべてが終わり、平和な日々が来てからも、リンクは時折私の様子を見に来てくれたのだよ。

私にとって彼は、兄とも思え頼り慕う人物だ。

今も遠き郷里より便りをくれる。

もつとも、さすがに手ずからでは無いが、シャッドという学者殿の代筆で送ってくれる。目はともかく、健勝であるようだ。

ところでお客入。

リンクの話を聞かれるとは、今宵ハイラル城にて催されている祝典に関係してのことではないかな？

田舎とは言え、ゾーラにもハイラルとの交流はある。そして影の国との関わりもな。

数日後には、この地でも歓迎の式が執り行われる予定だ。

それに、以前リンクの想い人の話も聞いている。

彼が逢えると良いな…

何？ ほっ？

ご子息が、彼の村に向かわれたのか。

祝着。

何よりだ。

それを知らせる為に、わざわざ立ち寄られたのか？

礼を言う。

もう行かれるのか？

この知らせ、安堵する者も多かるう。

氣をつけて行かれよ。

其の十 ある王の証言 (後書き)

王妃様も居るのかなあ？鮭は臭いですが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0831p/>

宵闇の滞在者

2011年3月23日08時25分発行